

笠間市教育振興基本計画策定のためのアンケート調査結果まとめ

アンケート結果から見える
市民ニーズ・課題

施策の方針	児童生徒	保護者	教職員	一般市民
1 幼児教育の推進	○やってみたい活動で小中ともに女子で「年下の子の面倒をみる」が5割以上。	○市の取り組む施策で「幼稚園・こども園・保育所・小学校の連携」が『重要』とする人は7割台。	○市の取り組む施策で「幼稚園・こども園・保育所・小学校の連携」が『重要』とする人は8割台。	○就学前教育の充実のために必要取組は、「あいさつやルールを守る意識の育成」と「基本的な生活習慣の育成」がともに6割程度。
2 学校教育の充実	○学校に行くのが『楽しい』児童生徒は8割以上。 ○学校での困り事は女子で「友達と関係」、中学生で「勉強のこと」。中学生の学校が楽しくない生徒では上記2つに加え、「先生との関係」も加わり悩みが多様化。 ○授業の理解度が『高い(7割以上わかる)』割合は、小学生は7割半ば、中学生で4割台。小中ともに学校が楽しい子で授業の理解度も高い傾向。 ○授業がわからない原因は、「授業の内容が難しい」が約6割、「苦手・嫌いな教科が多い」が約5割。中学生女子では「先生の説明がわかりにくいから」が約4割、「授業の進みが速いから」が3割。 ○学校や先生に望むことは「タブレット PC を使った新しい形の授業」「いじめのない楽しい学校」等が上位。 中学生では「一人一人の力に合わせた指導」「学校の施設・設備の整備」、小学生では「体験学習」。	○子どもの授業の理解度が『高い(7割以上わかる)』割合は、小学生保護者は7割台、中学生で5割。児童生徒の結果とほぼ同様。 ○授業がわからない原因は「これまで習ったことが身に付いていない」が約6割、「予習・復習をしていない」「苦手・嫌いな教科が多い」が4割台。 ○「子どもの学力や学習状況に不安」が約5割。 ○学校に望むことは「こどもの学校での様子を保護者に伝える」が6割台、「気軽に質問・相談できる」が4割半ば。 ○教員に望むことは、「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」「子どもの気持ちを理解すること」「子どもたちの様子を普段からしっかり見ていることが」いずれも5割台。 ○自由回答では、「教員による授業の進捗や内容の差」や「子どもの話を聞いてくれない」など、授業や教員に関する内容が多い。	○子どもの授業の理解度が『高い(7割以上わかる)』割合は、小学校職員は7割台、中学校職員で約4割。児童生徒や保護者の結果と同様。小学校職員の経験10年未満では約3割と低い。 ○授業以外で力を入れるべきことは「思いやりや命の大切さについて教える」「礼儀やルール、マナーについて教える」が8割超え。 ○教職員が職務の中で感じる課題は、小学校職員で「特別な支援が必要な児童生徒への対応」が7割、中学校職員で「基本的な生活習慣の乱れ」が6割、「いじめ・不登校」5割。 ○どのような教員でありたいかは、「専門的な知識があり、教え方が上手い」が約7割、「子どもの気持ちを理解すること」「子どもの悩みや意見にきちんと向き合うこと」がともに5割台。 ○自由回答では、「学校設備の老朽化」や「校務支援システムの使いづらさ」等学校・教育環境に関する内容が多い。	○子どもの教育について関心があることは、「家庭でのしつけ・教育」「いじめ・不登校問題」「道徳心や規範意識」がいずれも5割を超える。 ○特別支援教育の充実のために必要なことは、「障がいに対する理解の深化」が5割、「すべての子どもたちが共に学ぶことができる教育」「相談体制の強化」がともに4割程度。
3 家庭・地域・学校の連携強化	○近所の人からの「あいさつや声かけ」は8割以上、「よいことをした時ほめられる」は4割半ば。 ○やってみたい活動で、「地域の人との交流」は中学校女子で約5割。	○学校と協力したり参加してもよいと思う活動は「学校行事への参加」が約7割、「PTAの奉仕作業等の活動」が5割台。小学生保護者では「登下校時の見守り」が約4割。 ○地域の教育力が『機能している』は約3割。 ○地域の教育力を高めるために必要なことは、「地域の大人が地域の子どもの関心を持つ」が5割台、「子どもたちの安全の確保」と「子ども同士の遊びやスポーツの機会」が4割台。	○保護者に学校と協力したり参加してほしいと思う活動は「PTAの奉仕作業等の活動」と「登下校時の見守り」がともに約7割。 ○地域の教育力が『機能している』は2割半ば。 ○地域の教育力を高めるために必要なことは、「地域の大人が地域の子どもの関心を持つ」が約7割。	○地域の教育力を高めるために必要なことは、「子どもたちの安全の確保」と「子ども同士の遊びやスポーツの機会」がともに5割程度。 笠間地区では「地域の大人が地域の子どもの関心を持つ」、岩間地区では「子どもたちの安全の確保」が他の地区を上回る。

幼児教育

- ・幼稚園・こども園・保育所など就学前教育施設と小学校の連携強化
- ・小中学生と幼児の交流機会の創出 等

学校教育

- ・中学生の学力向上に向けたチーム・ティーチングや習熟度別の授業の推進
- ・子どものこころや悩みに向き合い、信頼しあえる関係づくり
- ・いじめ・不登校の未然防止
- ・教員の精神的・時間的余裕を生む校務の効率化
- ・効果的な研修による教員の資質・指導力向上
- ・小学校の特別支援教育への支援強化とインクルーシブ教育の推進
- ・授業へのICT活用に向けた環境整備 等

家庭・学校・地域の連携

- ・子どもが安全・安心に過ごせる地域づくり
- ・地域全体で子どもを育て・見守る体制づくり
- ・子どもの興味・関心に考慮した地域活動の推進
- ・子どもが身近でのびのびと遊べる環境整備 等

アンケート結果から見える
市民ニーズ・課題

※家庭教育を含む

生涯学習・文化活動

- ・家庭教育学級の内容・視点の工夫(普段は参加しない保護者に参加してもらう仕組みづくり)
- ・市民ニーズに合わせた、地域の交流拠点としての公民館事業の展開
- ・笠間の地域資源・人材を活用した郷土を愛する心を育む教育・キャリア教育の推進 等

スポーツ振興

- ・健康づくり・スポーツへの関心の高まりを受け、多様なスポーツ機会の提供
- ・子どもの遊びやスポーツを通じた体力の向上
- ・能力を伸ばすことのできる指導者の育成 等

図書館活動

- ・市民の誇りであるレベルの高い図書館の維持・向上
- ・あらゆる世代が利用しやすい環境整備(高齢化への対応、子どもの利用への理解など)
- ・小学校における学校図書ボランティアの周知と推進 等

施策の方針	児童生徒	保護者	教職員	一般市民
4 生涯学習・文化活動の推進	<p>○やってみたい活動で、「自然や環境を守る」は小学校男子が5割半ば、中学校男子で約4割。</p> <p>○やってみたい体験学習は「理科・自然体験」「職業体験」「社会科見学」「食育体験」等。</p>	<p>○家庭の教育力が『機能している』は約6割。</p> <p>○家庭の教育力を高めるために必要なことは、「家庭の団らんの場や機会」が約5割、「食を通じて家族のつながりを強める」が約4割。</p> <p>○笠間市の特長や誇りに思うことは「菊まつりや陶炎祭などのイベント」「笠間稲荷神社などの神社・寺院」が5割超え、「豊かな自然・美しい公園」「美術館・資料館」が約4割。</p>	<p>○家庭の教育力が『機能している』は約3割。</p> <p>○家庭の教育力を高めるために必要なことは、「育児・教育について保護者が学ぶ機会」が5割半ば、「保護者がしつけ・教育について気軽に相談できる場・機会」が約5割。</p> <p>○“笠間らしい”教育に活用できる地域資源は、「笠間稲荷神社などの神社・寺院」「美術館・資料館」が7割台後半、「笠間焼等地域の産業」「菊まつりや陶炎祭などのイベント」が6割半ば、「栗や地酒など笠間ブランドの特産品」「豊かな自然・美しい公園」が5割台。</p>	<p>○この1年間で生涯学習を「行った」人は3割台。</p> <p>○公民館を『利用する』人は3割程度。年齢が高いほど多い傾向。</p> <p>○公民館講座への要望は、「健康づくり」「資格取得・仕事に役立つ」「親子で参加」など。「明るく気軽に入れる雰囲気づくり」や「子どもの遊び場」「あらゆる世代の交流拠点」の希望もあり。</p>
5 スポーツの振興	<p>○将来の夢やなりたい職業の第1位はスポーツ選手やスポーツに関連する職業(「将来の夢やなりたい職業がある」と回答した児童生徒の約15%・56人)</p>	<p>○子どもに「体力や運動能力」が『身に付いている』は約7割。(○地域の教育力を高めるために必要なことで、「子ども同士の遊びやスポーツの機会」が4割台。)</p>	<p>○児童生徒に「体力や運動能力」が『身に付いている』は6割半ば。</p>	<p>○市のスポーツ活動を充実するために、「スポーツ施設や設備の充実」が約5割、「スポーツイベントや大会の開催」が4割弱、「情報の提供」「指導者の育成」がともに2割半ば。</p> <p>○今後学んでみたい・継続したい内容は「健康・スポーツ」が5割台。公民館講座の内容も「健康づくり」に関する要望が多い。</p>
6 図書館活動の推進	<p>○将来の夢やなりたい職業に「図書館司書」との回答も複数。</p>	<p>○市の取り組む施策で「読書ができる環境の整備」が『重要』とする人は約8割。</p> <p>○学校と協力したり参加してもよいと思う活動で「学校図書ボランティア」は小学生保護者で1割程度。</p>	<p>○市の取り組む施策で「読書ができる環境の整備」が『重要』とする人は約9割。</p> <p>○保護者に学校と協力したり参加してほしいと思う活動で「学校図書ボランティア」は小学校職員で3割超え。</p>	<p>○図書館を『利用する』人は約5割。子育て世代の30~40歳代や友部地区で利用の割合が高い。</p> <p>○図書館への要望には、「専門書の充実」「キッズスペース・子どもの利用への理解」「あらゆる世代が利用・交流できる環境づくり」「図書館を利用するきっかけとなるイベント」等があるが、現状で満足とする意見も多く高評価。</p>